



6月定例会私の一般質問①またしても…

「グリーンベル21」対応が遅れるのは何故？

本年の3月定例議会の際にも、予算審査で、「スピード感」をもって望むべしとの注文を付け、市長答弁もそれなりにいただいたはずなのに、はかばかしくない進捗…。したがって、「どこが、どのように、どんな理由」で遅れているのか？また、市長の危機意識にも問題点があるのか？を少しでも明確にしようと質問しました。

何故、今、全面閉館調査を？

高柳Q：率直に言わせていただきますと、いつ本格的に着手して、いつ頃を目途に「リニューアル」の姿が見えるのか？全てがこの作業後になってくるというタイムスケジュールに不安を覚えるのは私だけではないと思います。

昨年春に変わりました新市長の方針を踏まえるならば、少なくとも昨年夏から下準備には着手ができたのではないかと考えるわけですし、正式に調査を依頼したのであれば、調査項目と調査期限があるわけで、それらを含めてご説明をいただきたいと思います。

市長A：今後、グリーンベル21を市民共有の資産として使用していくため、現在、建物の状況把握を目的として、外壁や屋上防水の劣化状況をはじめ、配管の腐食や設備機器の状況などについて調査を進めていきます。

建物調査の中間報告については7月に、また、9月には最終報告書がまとまる予定ですので、これらの調査結果をもとに、必要な補修を行うとともに、利活用にあわせた改修を進めていきたいと考えています。



また、これから新たに、ヨーイ！ドン！では、もう10年必要？

丁寧といえば、丁寧ですが、時間と財源は無限ではなく、有限です。やはり、手際が悪いのは指摘せざるを得ず、厳しい再質問になりました。

「遅延の原因は何か？」に対して「公共施設としての安全性の確保のため」GB21の建設に携わった前田建設に「正式」調査を依頼したが、図面（構造計算書）がなく調査には苦勞をしているという答弁でした。手際の悪さの責任は、一重に市長のリーダーシップとの答弁でした。



全館閉鎖建物調査に伴ってグリーンベル21の駐車場棟の1階へ移転したFMOZE

GB21の維持管理費の状況と今後

高柳Q：本年度予算では、建物管理委託料約9500万円を計上していますが、（12ヶ月で割ると）月額平均約800万円の人件費、光熱水費、事務費等の内訳を沼田都市開発(株)の現在の業務内容と併せて説明を願います。

また、このビルの管理やテナント出店募集は、どのような組織が担当していくことが望ましいかを含め、今後についての考えを伺います。

市長A：沼田都市開発(株)の現在の業務内容は、警備、清掃、電気保安業務、機器の保守点検と法定検査への対応及び植栽管理等、施設全般の維持管理ですが、閉館中は、市として必要最小限の施設管理を行うこととし、現在沼田市が負担する1か月当たりの管理業務委託料は、光熱水費を除く経常的な管理経費として、160万円程度となっています。

今後のビルの管理方法等は、具体的な活用プランにあわせて、検討していく考えです。商業施設の運営には、専門的なノウハウが不可欠であり、早期に活用プランを検討するとともに、特に、具体的なテナントの配置計画や出店条件などを整理し、テナントの募集に努めていきたいと考えています。

市長A：平成20年頃から、新宿区をはじめとする首都圏の自治体と都市間交流事業を行い、イベント等を活用して観光や物産品の紹介を積極的に行い、さらに、田舎体験ツアーを開催し、首都圏の皆さんに好評で、いわゆる沼田市のファンを作ることができたと考えています。

シティーセールスの時代？

特に今年度、観光交流課内にシティーセールス推進室を設置し、沼田市の存在感を高めながら交流と合わせて、移住や二地域居住の推進に注力していますが、住み慣れた土地を離れて移り住む事を決断していただくには、就労・教育・福祉・医療・介護など様々な条件を整える総合的な政策展開が重要であると考えています。

これらは、地方創生と連動した取り組みを進める中で、どのように沼田市の特徴を生かしていけば、人口増につなげていくことができるか、さらに研究していきたいと考えています。



制度概要：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

○実施主体：地方公共団体

○活動期間：概ね1年以上3年以下

○支援：①隊員の募集等の経費

②地域おこし協力隊員の活動経費

③地域おこし協力隊員等の起業経費

地域おこし協力隊、利根町へ

高柳Q：総務省によるとこの「地域おこし協力隊」は平成21年度にはじまり、昨年度では、全国で隊員数1511人となり平成28年度までの2年間で倍の3000人を目標としていると認識しています。

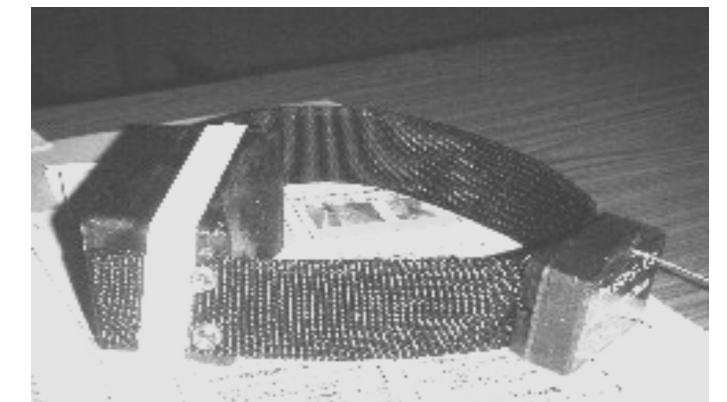
人口が減り高齢化も進んでくると、地域課題は分かっている自分たちだけの力では解決が困難であったり、地域内に埋もれていた「資源」にも気がつかないことが多いという弱点を克服し、いわゆる「ソトモノ」「ワカモノ」の力を借りながら従来の手法にとらわれず、新しい視点も組み合わせて地域を活性化してくこの制度は本市にとって有効と考えます。

すでにこの種の取り組みでは、「後発」に属しているこの事業を本市においては、当面どう取り組み、今後はどこへ繋げていく考えかお聞かせ下さい。

市長A：昨年の12月定例会で議員からご提案をいただいた地域おこし協力隊は、今年4月に募集を行い、4名の応募がありました。2名を合格とし、6月1日付けで委嘱したところです。

隊員は、利根町の鳥獣被害対策の支援活動を中心に、農林業振興や観光振興に係る支援活動に従事することとなりますが、利根町の住民として、地域協力活動などに積極的に参加し、地域の活性化を図りながら、最終的には、定住・定着をしていただきたく考えです。

そのためには、隊員の意向も尊重し、関係する各機関や住民等とも必要な調整を行うとともに、生活支援などのサポートを行っていききたいと考えています。



鹿や猿に首輪のように装着して信号を発信させます。

庁舎整備検討委員会の検討内容は？

高柳Q：庁舎整備検討委員会の検討内容の経過と今後の進め方について伺います。これについては財政課が中心になって進めていると認識していますが、残念ながら遅れていると思わざるを得ません。一定の方向性や結論が出ていることを望むわけですが、これまでの検討会議の回数及び、内容をお聞かせ下さい。

市長A：昨年度、現庁舎の現状と課題や新庁舎に求められる機能・役割、及び整備方法などについて、部会と合わせて8回の会議で検討を行いました。

また、庁舎整備の方法としては、「現在地での建て替え」、「新築による移転」、及び既存建物への移転として「グリーンベル21への移転」の3つの方法について検討を行い、それぞれの方法にメリット、デメリットがあるものの、諸状況を総合的に考慮して「グリーンベル21への移転を優先的に検討すべきである」との中間報告がなされたものです。

今後の進め方ですが、市庁舎をグリーンベル21へ移転することで、商業施設等との相乗効果により、複合施設としての利活用が期待できるので、検討を進めていく考えです。

庁舎整備検討委員会中間報告

がすでにまとめられていたのに

議会へ未報告だった！

高柳Q：庁舎整備検討委員会の中間報告が出たのはいつですか？

市長A：本年2月19日です。

高柳Q：なぜ議会に報告しなかったのですか？

市長A：委員会では、グリーンベル21への移転がベターであるという報告だったが、当初から天井が低い等の課題があったので、建物調査を経てからと考えました。

高柳Q：「確実になるまで」を待っていたら事業が完了してしまう。前提条件を伝え、報告すべきと考えます。

3月議会の時点で議会が認識していれば、対応は全く違うし、これでは、事態認識の共有が出来ません。

グリーンベル21活用推進課での

これまでの検討内容は？

高柳Q：ビルの利活用ですから当然沼田市役所内の全部署から様々なプランを募りながら、検討を重ねてきているものと推察いたします。

更には、公的機関、民間企業の出店の意向調査もあるのでしょう。こうした検討が現在ほどの程度まで進捗しているのか伺います。

市長A：これまで、専門家のアドバイスをいただきながら、担当課を中心に、ビルの複合的な利活用について検討を進めてきたところです。

高柳Q：利活用の中心には市役所本庁舎が据えられるべきと私は考えますが、利活用推進課では資料をそろえて検討するだけだとすると、庁内での組織合意は、どこで成されるのか大変心配になるわけですが、本市ではどのような形態やプロセスを経て沼田市としての意志決定をしていくのか伺います。

市長A：今後は、グリーンベル21の再生及び利活用について検討するため、新たに設置しました「グリーンベル21構想委員会」において、これまでに寄せられた意見・要望をはじめ、市民構想会議や庁内での意見等をもとに、建物の構造上の問題などについても確認を行いながら、早期に利活用の方針を決定するとともに、具体的な活用プランについて検討していきたいと考えています。

事態認識の違い？

平常時と非常時のスピード感

部長A：5月22日に「グリーンベル21構想委員会」を設置しました。その構成は、専門家含む副市長、教育長及び各部長10名です。

6月12日に第1回目の会議を開催して、各部からの施策の内容等を話し合いました。

また、7月に建物調査の中間報告も出る予定なので次回は、それらも踏まえて議論をしたいと考えています。

高柳Q：やはり、スピード感が足りないと思います。平常時なら「月一回のペース」でも良いが、遅延している非常時では頻度アップを！

グリーンベル21を

庁舎とした場合と新築との費用比較

高柳Q：グリーンベル21を庁舎とした場合と新築との費用比較について改めてお示し下さい。

私としての視点は、市役所や公的機関の主たる任務や役割は、投じた資金の効果のみを高める事ではなく、福祉を軸として市民の満足度や幸福度を高めていく機能こそが、その中心に据えられるべきと考えます。

市長A：昨年度、庁舎整備庁内検討委員会で行いました試算があります。

この試算は、過去に行われた他の自治体の整備費用の平均単価を使用し、庁舎として必要な面積9,500㎡を乗じて試算した金額であること、改修費などグリーンベル21の建物の状態を反映した金額となっていないこと、また、建物購入費、用地購入費、旧庁舎解体費等は含まないことを前提としたものです。

金額としては、新築の場合の建設費用の試算額は32億円を超える金額と推計していますが、庁舎とした場合の改修に係る費用は、この金額よりも相当低い額となるものと推計しています。（この比較はグリーンベル21の建物状態が明確になっていない中で、他自治体の商業施設への移転の例を基に試算し、移設費用も含まない。）

庁舎とした場合の費用については、建物の調査結果など現状把握を行った上で、最新の労務費や建築資材などの高騰による建設費の上昇なども考慮して算出しなければならないことから、現段階では具体的な費用を申し上げられない状況ですので、ご理解を賜りたいと存じます。



いくつもの検討組織を立ち上げ屋上屋を重ねるだけでは事物は前に進まない

自分も含めて、誰でもそうだと思うが、難しくて困難なことは、先送りしたいし、自分が率先者として手を挙げたくないのは正直なところ。

グリーンベル21活用推進課を設置し、庁舎整備検討委を立ち上げ、市民構想会議にも相談し、さらに今度はグリーンベル21構想委員会まで「検討する組織」を作っても決定しなくて

期限は決まっている

いつまでに仕上げるつもり？

高柳Q：富岡市でも新庁舎手がけていて、基本構想から、パブコメ、そして基本計画までに3年を要しています。

様々話を聞いていると「いつまでに完成」させなければならない事業なのか見えないが、合併特例債の期限である5年後には終了させなくてはいけないのではないですか？

市長A：合併特例債がなくては、この事業（庁舎移転）の財政は成り立たないと考えています。スピードを上げるよう指示を致します。

改めて聞きます。

沼田市の最高決議機関はどこ？

高柳Q：市長決意は理解しました。しかし、問題は心意気ではなく「仕組み」にもあると思います。今の沼田市において最高の決議機関はどこですか？

市長A：それは「庁議」です。

高柳Q：では、その「庁議」の進め方ですが、事務分掌表では企画の担当になっています。

部課長会議等の調整役として、この間の取り組みに課題やスピード感に、対して支障や課題はありませんでしたか？

部長A：審議する案件をまず、部長会議で決めます。それが決まったら庁議という仕組みです。

高柳Q：「調整役」とはいやなポジションだと思いますが、（総務部が嫌われ役を引き受け）沼田市の共有財産としての活用が、実現されることなので、頑張ってください。

は、前に進みません。

また、検討や決定に際しては、期限の終了から押してきたタイムスケジュールを作るべきと考えます。（今回聞けなかったのは残念）

公共施設たる所以は？

グリーンベルの継続性を意識して、市長は事業採算のことに触れていると確信しますが、私は「黒字も大切だが、市民の満足度、幸福度を忘れてはいけない！」と強く求めました。

公共施設たる所以がそこにあるからです。